

科技高 いきものの記

Vol.72 2023.3.28

生物教員 佐藤龍平

環境に配慮した工事とは?! 都市公園の生態系保全

2年生の今年度最後の生物の授業で、みんなを猿江公園に連れて行った。猿江公園の工事を取り仕切っているサカイさんをお願いして、お話を聞こうと思ったのだ。はじめは工事について簡単に紹介してもらえば良いかなあ〜なんて安易に考えていたのだけれど（雑ですみません）、サカイさんは良い意味で予想を大きく裏切ってくれて、話を聞いているこちらは終始感動しっぱなしだった。サカイさんは、“**なぜこの工事を行っているのか**”、“**生物へ配慮した点はどういうところか**”、などを生徒に対して熱く語ってくれた。とくに印象的なのが、「生物を守っていくためには自分の力だけでは絶対に無理。だから、**いかに他の人を巻き込むかが大切なんです**。」と語っていたことだ。「だからこの工事もたくさんの人に関わってもらいながら行っています。工事が終わって自分が関わらなくなっても、市民や管理者が継続して保全していく。そういうのを目指しています。」サカイさんは大学で生物学を専攻し、造園や緑地管理に携わるこの職に就いたのだそうだ。「自然豊かな場所を守るのも大事だけど、都会に自然を増やすことに関わりたい。」という思いがあるそうだ。“工事”と聞くと、自然を壊すイメージが先行してしまいそうだが、環境保全にこれだけの思いをもって取り組んでいる方がいることを知って驚いた。

“生態系”や“生物多様性”は、教科書でも大々的に取り上げられているテーマだけれど、話の規模が大きすぎてなかなか“**自分ごと**”として考えにくい。特に都会に住んでいる人はなおさらだ。今まで授業をしながらも、みんなの心に響いてないの是一目瞭然で、なんとかできないかなと悩んでいた。そんな悩みを解決する答えがこんなに近くにあったとは。やはり当事者が語るの強い。参加したのはもともと生物に興味がある生徒ばかりだけど、“**生物系にはこういう仕事もあるのか!**”と感動していた。



工事現場の見学の様子 生物に配慮したポイントなどを説明してもらった



【猿江恩賜公園の生物多様性保全工事で見られる様々な工夫】

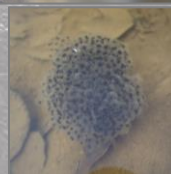
↓ 工事の様子（水を抜いて水位が下がっている状態）



↑ 石組みの上を登るヒキガエル
今までは垂直な壁だったためヒキガエルは少なかったが、今後はこのように岩場を上手に利用するカエルが増えるかもしれない。



↑ 工事後に産み落とされたニホンアカガエルの卵塊
工事では、底がタイル状だった人工池に土と落ち葉を入れ、ふちを浅くした。カエルたちが陸と池を行き来しやすくなるように石も置いた。工事によって何か悪影響が出ないか心配していたが、アカガエルたちは無事に産卵してくれた。



↑ 池のふちの様子 木の枝で柵を組み（粗朶柵：そださく）、土を入れる。浅い環境と深い環境を作り出し、色々な生物が住めるようにしている。



↑ 池に入れた土 荒木田土という保水力の高い粘土質の土を使う。栃木から運んだそうだ。